

5. 資料とりまとめ

5.1. カラフトマスとシロザケの来遊状況について

1) 北海道への来遊状況

(1) カラフトマス

カラフトマスの北海道来遊状況経年比較を図 5.1 に示す。H25（2013）年度の北海道におけるカラフトマス来遊数は 325 万尾であり、対前年（221 万尾）比が 147.1%、対平年（H1（1989）年～H24（2012）年平均：905 万尾）比が 35.9%と前年および平年を下回った。カラフトマスは来遊資源が隔年で変動する特徴があり、H16（2004）年以降の来遊数から判断した場合、本年は豊漁年に当たるが、H16（2004）年以降の奇数（豊漁）年の中で、今年は最も低調な来遊となった。

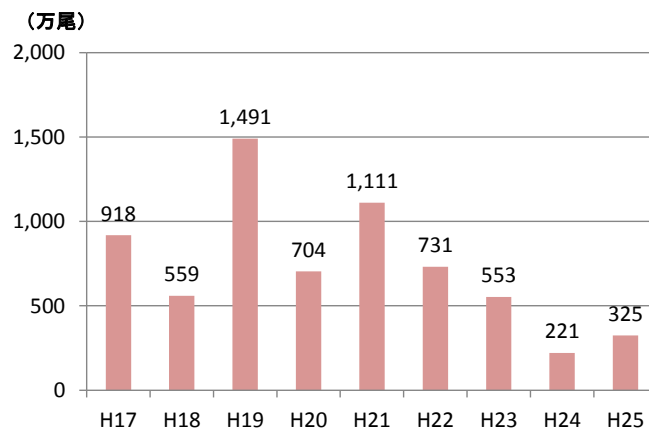


図 5.1 カラフトマスの北海道来遊状況経年比較

(2) シロザケ

シロザケの北海道来遊状況経年比較を図 5.2 に示す。H25（2013）年度の北海道におけるシロザケ来遊数は 4,217 万尾であり、対前年（3,889 万尾）比が 108.4%で、昨年度より微増であった。地域別には、日本海側（オホーツクから日本海区）の来遊数は 2,435 万尾で対前年（2,378 万尾）比が 102.4%、太平洋側の来遊数は 1,782 万尾で対前年（1,511 万尾）比が 117.9%であった。

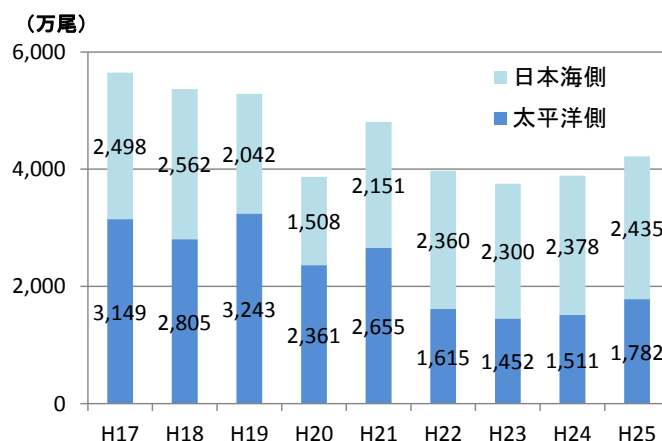


図 5.2 シロザケの北海道来遊状況経年比較

2) イワウベツ川での捕獲状況

(1)カラフトマス

イワウベツ川下流の岩尾別捕獲場におけるカラフトマス捕獲数経年比較を図 5.3 に示す。カラフトマスの捕獲は、H25（2013）年度は8月17日から10月中旬に行われ、この期間に捕獲されたカラフトマスは総計74,494尾であった※。

前述したとおり、H25（2013）年はカラフトマスの豊漁年にあたり、前年（17,146尾）に対する比は434.5%と豊漁で、一昨年の72,831尾とほぼ同量の捕獲数であった

※（社）北見管内さけ・ます増殖事業協会への聞き取り調査による（H25（2013）年12月19日）

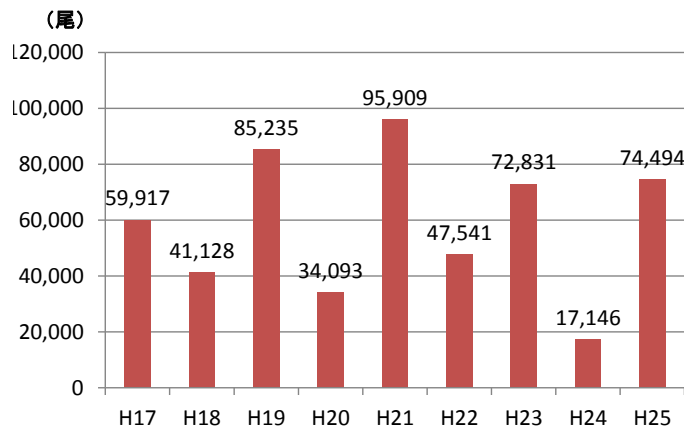


図 5.3 岩尾別捕獲場でのカラフトマス捕獲数経年比較

(2)シロザケ

イワウベツ川下流の岩尾別捕獲場におけるシロザケ捕獲数経年比較を図 5.4 に示す。シロザケの捕獲は、H25（2013）年度は9月下旬から11月15日までの期間で行われ、この期間に捕獲されたシロザケは総計35,135尾※であった。前年（13,354尾）に対する比は263.1%と豊漁であり、過去8年間では最も高い捕獲数であった。

※（社）北見管内さけ・ます増殖事業協会への聞き取り調査による（H25（2013）年12月19日）

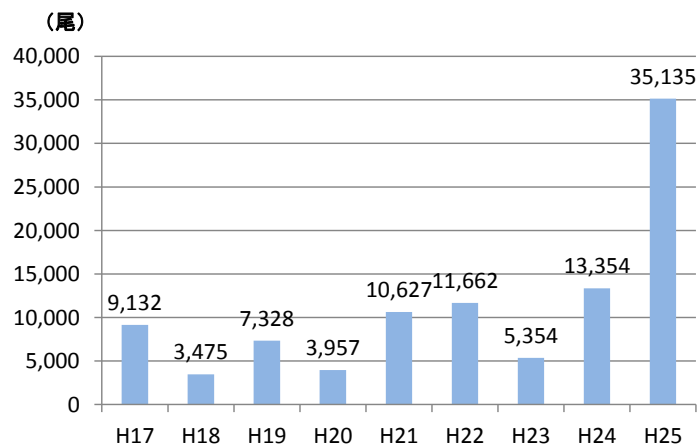


図 5.4 岩尾別捕獲場でのシロザケ捕獲数経年比較

5.2. サクラマス再生への取り組み

H11（1999）年より、斜里町、知床財団、（社）北見管内さけ・ます増殖事業協会は、イワウベツ川においてサクラマス個体群の復元事業に取り組んでおり、各支流に稚魚や発眼卵の放流を行っている。過年度からの放流実績は表 5.1 に示したとおりである。なお、本年度は稚魚や発眼卵の放流を実施していない。

※知床財団への聞き取り調査による（H24 年 11 月 30 日）

表 5.1 サクラマスの稚魚と発眼卵の放流実績

放流実施年	幌別川		イワウベツ川水系		備考
	稚魚	発眼卵	稚魚	発眼卵	
H11（1999）年	5 万	3 万	5 万	3 万	稚魚は春、発眼卵は秋に放流
H12（2000）年	—	10 万	—	7 万	
H13（2001）年	—	5 万	—	5 万	
H20（2008）年	—	—	—	15 万	10 月 28 日に放流 白イ川：150,000 粒
H21（2009）年	—	—	—	20 万	11 月 2 日に放流 白イ川：200,000 粒
H22（2010）年	—	—	—	10 万	10 月 24 日に放流 白イ川：100,000 粒
H23（2011）年	—	—	—	20 万	10 月 25 日に放流 ピリカベツ川：67,000 粒 盤ノ川：67,000 粒 白イ川：67,000 粒
H24（2012）年				5 万	11 月 1 日に放流 盤の沢：50,000 粒

5.3. 改良ダムのメンテナンス

イワウベツ川の改良ダムにおいて、これまで行われたメンテナンスを表 5.2 に示した。

表 5.2 イワウベツ川の改良ダムのメンテナンス

	河川工作物No.	メンテナンスの内容
1	赤イ川 No. 11 コンクリート床固工	H24 (2012) 年春に No. 11 コンクリート床固工下流に巨石配置を実施した。
2	赤イ川 No. 12 鋼製えん堤	H24 (2012) 年 5 月の増水によりスリット部が流木と石礫で閉塞した。同年 6 月に流木、石礫を除去した。また、その際スリット部下流に巨石配置を実施した。
3	赤イ川 No. 13 鋼製えん堤	H24 (2010) 年 5 月の増水による土砂堆積で、流水が左岸寄りのダムスクリーン上部を越えて流れるようになったため、同年 6 月に流水がスリット部を流れるように、玉石配置による河道修正を実施した。
4	赤イ川ふ化場導水管	H24 (2012) 年春に、魚類遡上を容易にするために、導水管の下流に玉石置きを実施した。
5	ピリカベツ川 No. 8, 10 コンクリートえん堤	スリット部に流木が横になった状態で堆積し、H24 (2012) 年 9 月時点で 40cm の落差が生じていた。このため 10 月 4 日に流木を切断・除去した。

※ 1～4：北見管内さけ・ます増殖事業協会実施

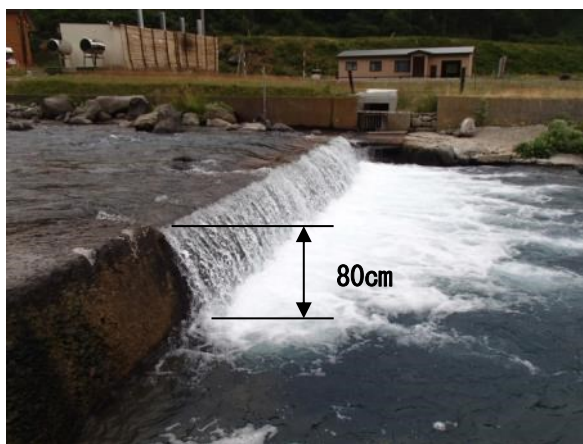
5：森林管理局実施

5. 4. 捕獲場えん堰の落差について

岩尾別捕獲場ではシロザケ、カラフトマス捕獲用の魚止として、えん堰を設置しているが、平成 25 年は、増水時に遡上力の高い個体が泳ぎ廻れるように、えん堰下流の淵に末端に巨石を置いて水面高を上げた。その結果、水面落差は 80cm となった。



平成 24 年 9 月の捕獲場えん堰の状況



平成 25 年 8 月の捕獲場えん堰の状況